

保健師からの ちょっといいはなし!



赤ちゃんの発熱

赤ちゃんは体温調節機能が未熟なため、病気でなくても、感情の変化や室温、服の着せ方、運動などで熱を出すことがあります。また、病原菌に感染したときは、からだがかた激に反応し、必要以上に体温を上げ、39℃40度といった高熱を出すことがあります。赤ちゃんは大人より発熱しやすく、また免疫力が低いいため頻りに熱を出します。

赤ちゃんの病的な発熱の原因は、ウイルスや細菌の感染によるものがほとんどです。

人は発熱することによって、からだの中に入り込んだ病原体を退治しています。発熱はからだの中で病原体と戦っている火花であり、からだの大切な防衛反応です。

ですから発熱そのものを必要以上に恐れることはありません。重要なのは、どのような病原体が、体のどこに感染しているかということ、熱が高いことと重症度はあまり関係がありません。熱が低くても重症な病気にかかっている場合がありますので、いつもと比べ表情や機嫌はどうか、水分や食事はとれているか、などについてよく観察し、

赤ちゃんの 発熱



気づいたことがあれば、その変化を医師に詳しく伝えることが大切です。

解熱剤の使用

発熱を通して赤ちゃんは病原体への抵抗力を獲得していきま。そのため発熱時に慌てて解熱剤(熱冷まし)を使用するのは、良い手当てとは言えません。解熱剤は一時的に熱を下げますが、熱が下がったからといって、病気が早く治るわけではありません。解熱剤は、高熱で体力を消耗する赤ちゃんの熱を一時的に下げ、その間に栄養を補ったり、睡眠をとらせて病気の回復の手助けをしてくれるものです。解熱剤の使用は医師の指示に従い、必要以上に使用しないように気をつけましょう。



発熱時と発熱後の対応

発熱時に大切なことは、水分補給です。特に赤ちゃんは脱水

を起こしやすく、ミルクや白湯・麦茶などの水分を十分に与えてください。下痢や嘔吐、激しい咳などの症状がある場合は、少しずつ回数を分けて与えましょう。脱水予防のために医師がイオン飲料をすすめることがあります。その場合は指示に従いましょう。(ただし、イオン飲料は糖分が多く含まれているため、日常的に習慣化しないように気をつけてください。)

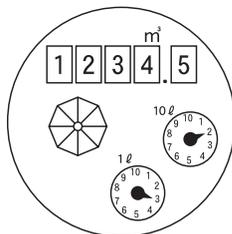
冷やすか温めるかは子どもの顔色、様子を見て判断します。熱が上がりが、ほてっている場合は、着せすぎたり、布団を多くかけて汗を無理に出させることはせず、薄着にして熱を発散しやすくしましょう。また、手足の冷たい時、熱の上がり際の震えがみられる時は、掛け物を足して身体を暖めてあげましょう。

昔ながらの氷枕は心の安静を保ち、安眠を導くのに適しています。39度以上の発熱で元気がない場合、ビニール袋に2〜3個の水を入れたものをガーゼなどでくるみ、脇の下を冷やすと解熱効果がありますが、この場合は、冷やしすぎないように注意が必要です。

これから風邪がはやってきますので、お子さんの発熱時の参考にしてください。

交換時期 9月20日(水)～10月31日(火)

水道メーターを 交換します



ご家庭で使用されている水道メーターの使用有効期限は、計量法で8年と定められており、有効期限が到来するものについては、事前にお知らせをしたうえで、新しいものに交換しています。

作業は、企業団指定の給水装置工事業者に委託して行います。屋外作業ですので、お留守でも実施させていただきます場合がありますのでご了承ください。

なお、ご家庭の費用負担はありません。